

過疎だけどにぎやかな町。斬新なチャレンジを歓迎し、応援する寛容さにあふれ、様々な人がこぞって集う、活気ある町。

新しい時代の中でも決して埋もれることなく、小さいながらもキラリと光る存在でありたい。

新しいまちづくりの合言葉、「にぎやかそ」にはそんな思いが込められています。

みんなが笑顔で夢を語れる町を目指して取り組む、美波町の地方創生を紹介します。

【シリーズ】映画にも描かれた地方創生、「美波町モデル」とは

Vol.3 総務省大臣政務官視察。美波町への注目と、寄せられる期待。

■人口推計に現れた「美波ふるさと創造戦略」の成果

「美波ふるさと創造戦略」とともに策定された「美波町人口ビジョン」は、人口減少傾向に歯止めをかけようとする国や県の計画と同様に、2060（令和52）年を見据えています。

ここ数年で急に耳にするようになった「人口減少社会」という言葉。国勢調査の結果から算出したところ、2015（平成27）年から日本は人口減少に転じ、2060（令和42）年には8000万人台までに。都市部を含めた全ての地域が、深刻な人手不足になると予測されています。

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）からは5年ごとに未来の人口予測が発表されていますが、平成30年分において、美波町は前回の平成25年分との比較で大きく上向いた予測を見ることができました。

徳島県内24市町村のうち、前回よりもプラスとなったのは10市町。県南部は美波町を除いて全てがマイナス、つまりさらに減少が進むとの結果となっている中、元々の人口規模や日本の全人口の未来予測から考えれば、プラス9%は驚異的なアップ率です。

平成25年から平成30年といえば、美波町では地方創生・地域振興事業を加速させ、「美波ふるさと創造戦略」「美波町人口ビジョン」を策定した時期と合致します。みんなが大切にしている“ふるさと”である美波町の魅力を再発見し、磨きをかけて新たな“価値”を創造し、未来の扉を拓いていくために、住民や企業、町などみんなの総参加のもと“共創（協奏）”して取り組む。過疎であってもにぎやかな町、『にぎやかそ』を目指した結果が、今回の数字となってあらわれ始めているのではないのでしょうか。

もちろん、2040年には町の人口が3,915人までになるとの予測は、かなり心配になる数字です。ですが、ここまでの5年で323人増なら、ここからも取り組み次第でさらなる結果が見込める、人口減の流れをより緩やかなものできるとも考えられるのではないのでしょうか。

<2040年に向けての人口推計>

出典：平成30年国立社会保障・人口問題研究所推計

美波町の平成30年予測では、平成25年に比べ、「未来の人口の減少幅がより小さくなる」との結果が出ています。



今回の推計において、徳島県内では平成30年の予測が、平成25年に比べ、「人口減少がさらに加速している」とされる結果が出た自治体が24市町村のうち、14市町村となりました。

人口推計予測結果をうけて

美波町長 影 治 信 良

日本が本格的な人口減少局面に入り10年が過ぎました。

特に美波町のように経済的、社会的条件が不利な過疎の町においては、人口減少や少子高齢化が全国平均を上回る速さで進み、地域コミュニティの崩壊や農地・森林の荒廃、貴重な地域の伝統文化の継承が難しくなるなど、人口減少問題は南海トラフ地震への備えとともに本町が取り組むべき重要なテーマの一つです。

そんな中で、「人口減少が緩やかになる」という結果が出たことは、本町のめざす「住んでよかったと実感できるまちづくり」にまた一歩近づく、地域振興事業の成果ではないかと考えています。